

# 事業実績報告書

平成20年度

学校法人 明浄学院

# 学校法人明浄学院

## 平成20年度事業実績報告書

### 法人の概要

#### 建学の精神

『明(あか)く、浄(きよ)く、直(なお)く』の精神に則り、豊かな心と深い教養を備え、知性に輝く有為の人材の育成

#### 主な沿革

- 1921.4 大阪府大阪市阿倍野区に「明浄高等女学校」を開校。
- 1948.4 学制改革に伴い「明浄学院高等学校」「同中学校」となる。
- 1985.4 大阪府泉南郡熊取町に「大阪明浄女子短期大学(英語科)」開学。
- 1989.4 同短期大学に文芸科を増設。
- 2000.4 短期大学と共用敷地に「大阪明浄大学(観光学部・観光学科)」開学。男女共学。
- 2003.4 短期大学2004年度以降の入学生募集停止。
- 2004.4 主たる事務所を大学所在地に移転。
- 2004.9 明浄学院中学校廃止認可。
- 2006.4 大阪観光大学に大学名称変更。

#### 設置する学校(H.21.5.1)

- 大阪観光大学 観光学部・観光学科
- 大阪明浄女子短期大学 英語科・文芸科(廃止認可申請予定)
- 明浄学院高等学校 全日制・普通科

#### 学生・生徒数(H.21.5.1)

	入学定員	3年編入定員	収容定員	志願者	合格者	1年	2年	3年	4年	合計
大 学	190	20	800	246	178	134	119	144	157	554
短期大学	200	-	400	-	-	0	0	-	-	0
高等学校	230	-	730	483	482	180	171	168	-	519
計	620	20	1930	729	660	314	290	312	157	1,073

短期大学は学生募集停止、高等学校は定員に替え募集人員。志願者・合格者に編入学は含まない。

教職員数 (H.21.5.1) (契約教職員を含む専任)

	教育職員	事務職員	計
大 学	24	14	38
短期大学	-	-	-
高等学校	37	5	42
法 人	2	1	3
計	63	20	83

法人の教育職員は学院教育支援センター員をいう。

役員等数 (H.21.5.1)

	定数	現員
理事	9～12	11
監事	2	2
評議員	25～28	25

常勤の役員

理 事 長	三上貴彦	短期大学学長
常務理事	難波伸太郎	法人本部長事務取扱
理 事	槻本邦夫	大学学長
理 事	瑠東東治	高等学校校長
理 事	中尾 清	大学観光学部長

非常勤の役員

理 事	中尾浩一
理 事	播磨荘一郎
理 事	福本幸子
理 事	田浦 清
理 事	谷 準一
理 事	堀 弘二
監 事	中山俊治
監 事	見鳥信吉

校地・校舎

	大阪観光大学			大阪明浄女子短期大学		
	専 用	共 用	計	専 用	共 用	計
校地	0 m <sup>2</sup>	43,846.17m <sup>2</sup>	43,846.17m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	43,846.17m <sup>2</sup>	43,846.17m <sup>2</sup>
校舎	5,635.83m <sup>2</sup>	7,575.32m <sup>2</sup>	13,211.15m <sup>2</sup>	3,282.27m <sup>2</sup>	7,575.32m <sup>2</sup>	10,857.59m <sup>2</sup>

注) 共用面積は重複表示。

	明浄学院高等学校		総計
	専 用	計	
校地	13,701.50m <sup>2</sup>	13,701.50m <sup>2</sup>	57,547.67m <sup>2</sup>
校舎	12,558.00m <sup>2</sup>	12,558.00m <sup>2</sup>	29,051.42m <sup>2</sup>

(校地・校舎は、すべて自己所有。)

## 各学校の事業実績の概要

### 大阪観光大学

目 標 : 全国唯一の観光大学として特化し、その評価を確立することを目標とする。

計数目標 : 帰属収支差額比率を 7.5%とする。 7.5%と達成。

志願倍率 : 1.2倍 1.2倍を達成

施 策 : 今年度実施内容および目標

- 項目 1 大阪観光大学の周知を図るため、PR活動を強化する。  
各種のPR活動を実施し、大阪観光大学の知名度アップを図った。  
朝日新聞との共催による「朝日・大学パートナーズシンポジウム」を7月5日に大阪国際会議場で実施。  
平成21年3月10日開催の第2回観光経済国際シンポジウム事業(主催:国土交通省,世界観光機関)への参加。  
産経新聞社との共催による「高校生観光エッセーコンクール」3回目を実施。  
「大学コンソーシアム大阪」主催の高校生のための「大学フェア」に参加。
- 項目 2 平成20年度よりカリキュラム改正を実行し、観光学による教育の効果を上げ、加えて学生の満足度を満たす。  
新カリキュラムを実施
- 項目 3 セメスター制を活かし、後期入学制度(10月)を今年度も実行する。  
実績なし。
- 項目 4 「大学コンソーシアム大阪」と単位互換事業に協力し、大阪市内で「大阪観光学」を開講し他大学の学生や一般市民に講義を開放する。また、本学校舎においても、正課6科目(温泉地理学、観光地理学、地方自治観光政策論、都市観光論、外食産業論、レストラン経営論)を他大学の学生に開放する。  
受入れ1人(関西外大)、本学から他大学(大阪経済大学)1人、本学からセンター科目1人
- 項目 5 財団法人「日本高等教育評価機構」による認証評価を受けるべく、自己点検評価態勢を強化する。また、その一環として、セメスター毎の授業評価を実施する。  
実施済み。
- 項目 6 総合旅行業務取扱管理者、国内旅行業務取扱管理者の合格率向上を図る。  
総合旅行業務取扱管理者試験8人、国内旅行業務取扱管理者試験4人合格
- 項目 7 科目等履修生を社会人に対して積極的に募集する。  
開講科目86科目に13科目(6人)応募
- 項目 8 充実した社会人講座の開講について積極的に対応を図る。  
社団法人「外食産業協会」との連携による「外食産業論」及び「レストラン経営論」を本学で正課として開講し、広く社会人にも公開する。
- 項目 9 キャリアアップ講座の通関士講座、サービス接遇検定講座等を開講し、社会人にも公開する。  
開講講座4講座に57人受講。
- 項目 10 地域との連携は、「大学コンソーシアム大阪」や「南大阪地域大学コンソーシアム」という地域大学連携組織との関係も深め、拡充を図る。  
「大学コンソーシアム大阪」や「南大阪地域大学コンソーシアム」の会員として活動。
- 項目 11 高大連携事業の一環で、観光学の魅力等を広げるためにも、例年どおり、明浄学院高等学校への出張授業を実施するとともに、本学への入学を積極的に促進する。  
毎週月曜日5時限・6時限に出向いて授業実施。
- 項目 12 国際交流についてさらなる強化を図り、今年度も積極的に留学生を受け入れる。また、本学学生の海外留学も支援する。  
受け入れ留学生 9カ国(中・韓・ミャンマー・ベトナム・台湾・ネパール・モンゴル・パラオ・ブータン) 53名予定(うち22名は編入学)  
送り出し留学生 4カ国(豪・加・中・韓) 5名予定
- 項目 13 産学官の連携を図り、特に「大阪観光コンベンション協会」や「関西広域連携協議会」との連携を図る。  
各種の連携を図った。
- 項目 14 ICT(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)の向上を図るため、情報処理教室、研究室等のパソコンの更新を行う。  
パソコン140台の更新を図った。

## 明浄学院高等学校

### 1. 生徒募集の強化について

昨年度に引き続き、中学校や塾を対象に年間2回「入試広報紙」を発行した。内容は、体験入学や入試説明会の案内、本校独自の学校行事、自由選択科目の紹介、クラブの活動実績等で、日常的な本校の活動状況についても広報を行った。学習塾への広報活動も昨年に引き続き、広報訪問を実施した。またデータの蓄積・整備により本校独自の広報用塾データベースの充実を図った。平成20年度中学校訪問は延べ1056校、学習塾訪問は延べ346校であった。

平成21年度入試結果としては、女子高校全体での出願者数は、昨年度より810名であった。また、募集定員に対する女子高校の平均専願率は25.0%と入学状況は昨年以上に厳しい状況であった。本校の出願者数は昨年比34名、募集定員に対する専願率は28.3%にとどまった。

次年度に向けては、看護医療系進学コース、特進コースの専願者数の拡大が課題である。

### 2. 教育内容の充実について

自由選択科目制度は実施の2年目を終えほぼ軌道に乗った。ただ、コース制への発展については各科目選択の生徒数のばらつき等、新規コース設置の検討には至らなかった。高校改善協議会からの答申でもあった礼法導入については、職員間の意思統一が取れず見送りとなった。

クラブ部活動の推進では、吹奏楽部の全国吹奏楽コンクール「金賞」受賞をはじめ、スキー部のインターハイ出場、ソフトボール部の近畿大会出場等、各クラブが大いに活躍し、当初の目標を達成することができた。

国際化教育の推進については、英会話授業を継続すると共に、Marist校との「短期交換留学制度」に基づき、4月にはMarist校より第1回短期交換留学として6名の生徒が来校、また本校からは第2回短期交換留学として3名の生徒がMarist校を訪れ、成果を上げることができた。

大阪観光大学との連携としては3年を対象に「観光大学講座」を開設し17名の生徒が受講した。

### 3. 進学実績の向上について

看護医療系進学コースでは、看護専門学校への合格は100%実績を維持することができた。当初の課題である上位難関私立大学への合格実績は出なかった。

併設大学「大阪観光大学」へは5名の内部進学者を出すことができた。次年度に向けて、難関上位私立大学および併設大学への進学者数拡大が喫緊の課題である。

財務の状況は、各年度の決算書（資金収支、消費収支、貸借対照表）、財産目録、監査報告書を参照。